

スターリン全集刊行会訳

スターリン全集

第十卷

大月書店刊

ス タ ー リ ン 全 集

一九五三年二月二十五日
一九五四年四月二十日
初版發行
再版發行

定価 四八〇円

訳 者

ス タ ー リ ン 全 集 刊 行 会

発行者

東京都文京区本郷二ノ一五
小林直衛

第 十 卷

印刷者

東京都千代田区内幸町二ノ二〇
株式会社太平印刷社

製本者

東京都千代田区錦町三ノ二四
株式会社田中製本所

發行所

東京都文京区本郷
一丁目一五番地

大

月 書 店

電話小石川(92)三〇九一番
振替東京一六三八七番

訳者はしがき

一 本巻は、ソ同盟共産党（ボリシエヴィキ）中央委員会付属 マルクス・エンゲルス・レーニン研究所編集の『イ・ウエ・スターリン全集』第十巻の翻訳である。

一 スターリンの原注は * をもってしめす。そのほかの注は、日本の読者の便宜を考え、原書の編集者注を参考にして、訳者がつけたものである。ごく簡単な注は、角がっこ「」にかこんで本文中にいたが、他は事項注と人名注とにわけ、本文の終りに一括してつけた。人名は、本文のなかに出てくるかぎり、原則として、すべて注をつけることにした。事項注は本文に出る注番号の順に、人名注は「アイウエオ」順に、それぞれ排列した。

一 原文のゴシック体の箇所は訳文でもゴシック体にし、隔字体の箇所には傍点をつけ、頭文字だけでくんである箇所は活字をいちだん大きくした。ただ見出しのところは、かならずしもこの方針によらなかった。

一 本文のうえの欄外にある算用数字は、翻訳底本とした原書のページ数をしめす。

一 全集版原書では、『レーニン全集』からの引用のばあい、その第三版の巻数とページ数がしめしてあるが、翻訳にあたっては、それをすべて第四版の巻数、ページ数にあらためた。

一 翻訳の参照は、マルクス、エンゲルスについては、『マルクス・エンゲルス選集』（大月書店版）、レーニンについては、『レーニン二巻選集』（社会書房版）によった。したがって角がっこ「」中の巻数、分冊数、

ページ数は、右の二つの選集の巻数、分冊数、ページ数である。

- 一 人名、地名は現地の発音に近く表記することを原則としたが、慣用のものについては、それをもちいたばあ
ちが多い。

- 二 翻訳は、それぞれ担当の訳者がまず訳出し、これに校閲者団が、各国語訳および邦訳をも参照しつつ、厳密
に校訂をくわえ、さらに術語、用字、文体などの整理、統一をおこなって、完成したものである。

(V)

序 文

イ・ヴェ・スターリン全集第十巻には、一九二七年の八月から十二月までに書かれた著作がおさめてある。

一九二七年の終りまでに国の社会主義工業化の政策は、決定的な成功をおさめた。ポリシエヴィキ党とソヴェト国民とのまえには、農業集団化の道へ移行するという緊急な任務があらわれた。

ソ同盟共産党(ボ)第十五回大会にたいする中央委員会の政治報告のなかで、イ・ヴェ・スターリンは、ソ同盟の国際的地位、資本主義諸国内の状態、全世界の革命運動の状況を分析し、資本主義の包囲という諸条件のもとでのソ同盟の社会主義建設の諸成果をしめし、社会主義的重要拠点の拡張と強化、国民経済における資本主義的諸要素の一掃という任務を規定している。イ・ヴェ・スターリンは、大会によって可決された農業集団化の方針の根拠を明らかにしている。

(VI)

ソ同盟共産党(ボ)第十五回大会における報告および、その報告の結語、『ロシアの反対派の政治的特徴』、『過去と現在のトロツキー反対派』、『党と反対派』という演説、その他の著作のなかでスターリンはトロツキー主義の思想的粉碎をなしとげ、党のまえにトロツキーリジノヴィエフの反ソヴェト・ブロックを完全に組織的に粉碎し、一掃するという任務を提起し、ポリシエヴィキ党の隊列内の統一と鉄の規律のために、うまずたゆまずたかねばならないことを強調している。

スターリンの著作『十月革命の國際的性格』、『外国労働者代表団との会談』、『國際情勢とソヴェト同盟の防衛』は、人類の歴史における資本主義から共産主義への根本的転換をあらわし、また社会民主主義にたいするマルクス・レーニン主義の勝利をあらわす大十月社会主義革命の世界的意義を明らかにしている。イ・ヴェ・スターリンは、世界革命運動の根拠地としてのソ同盟の意義と、帝国主義の攻撃にたいしてソ同盟をまもる必要とを強調している。

『第一回アメリカ労働者代表団との会談』のなかで、イ・ヴェ・スターリンは、マルクス主義とレーニン主義との不可分の統一をしめし、レーニンが、新しい時代——帝国主義とプロレタリア革命の時代——に応じてマルクス・エンゲルスの理論を發展させ、マルクス主義の共同の宝庫にもたらした新しいものを明らかにしている。

第十巻では、『同志エム・イ・ウリヤノフに。同志エリ・ミヘリソンへの答』、『論文「十月革命の國際的性格」の概要』がはじめて發表されている。

ソ同盟共産党（ボ）中央委員会付属
マルクス・エンゲルス・レーニン研究所

目 次

序 文	三
ソ同盟共産党(ボ)中央委員会・中央統制委員会合同總會	一三
国際情勢とソヴェト同盟の防衛	一五
一 コミンテルン諸支部にたいする反対派の攻撃	一五
二 中国について	二三
三 英ソ統一委員会について	四九
四 戦争の危険とソ同盟の防衛について	五四
八月五日の演説	七五
一九二七年八月八日の反対派の『声明』について	一〇一
第一回アメリカ労働者代表団との会談	一一〇

一 代表団の質問と同志スターリンの答	二〇
二 同志スターリンの質問と代表団員の答	二五
同志エム・イ・ウリヤーノヴァに。同志エリ・ミヘリソンへの答	二五
ロシアの反対派の政治的特徴	一九
論文『十月革命の国際的性格』の概要	一八五
過去と現在のトロツキー反対派	一九〇
一 いくつかの小さな問題	一九
二 反対派の「綱領」について	一九七
三 討論と反対派一般にかんするレーニンの見解	二〇一
四 反対派と「第三勢力」	二〇一
五 反対派はどのように大会の「準備」をしているか	二〇八
六 レーニン主義からトロツキー主義へ	二二
七 最近数年の党の政策の若干の重要な総決算について	二五
八 アクセリロードへの後退	三〇
外国労働者代表団との会談	三三

十月革命の国際的性格（十月革命十周年によせて）	二五八
モスクワ軍管区党会議に	二六九
党と反対派	二七〇
一 討論の簡単な総決算	二七〇
二 労働者階級と農民	二七三
三 党とプロレタリアートの独裁	二七六
四 われわれの革命の展望	二八二
五 これからさきはどうなるか	二八五
ソ同盟共産党（ボ）第十五回大会	二八九
中央委員会の政治報告	二九一
一 世界資本主義の危機の増大とソ同盟の対外的地位	二九一
二 世界資本主義の経済と外国市場のための斗争の激化	二九二
三 資本主義の国際政治と新しい帝国主義戦争の準備	二九六
四 世界革命運動の狀態と新しい革命の高揚の前兆	三〇三
五 資本主義世界とソヴェト同盟	三〇五

五 結 論.....	三〇八
二 社会主義建設の成功とソ同盟の国内情勢.....	三一一
一 全体としての国民経済.....	三一二
二 わが社会主義的大工業の發展テンポ.....	三一九
三 わが農業の發展テンポ.....	三二三
四 諸階級、国家機構、国の文化的發展.....	三二三
三 党と反対派.....	三四四
一 党の 状 態.....	三四四
二 討論の總決算.....	三五七
三 党と反対派との根本的な意見の相違.....	三五五
四 これからさきはどうなるか.....	三六六
四 總 決 算.....	三七一
中央委員会の政治報告にかんする結語.....	三七四
一 ラコフスキの演説について.....	三七四
二 カルメネフの演説について.....	三七七
三 總 括.....	三八九

にせ『スターリン論文』にかんする外国新聞代表者あての声明	三九三
事項訳注	三九七
人名訳注	四二二
スターリン年譜	四三三

一九二七年 八月—十二月

(1)

ソ同盟共産党(ボ)中央委員会・
中央統制委員会合同總會

一九二七年七月二十九日―八月九日

イ・スターリン『反対派について』
一九二一―一九二七年の論文と演説
モスクワ・レニングラード、一九二八年

